

# 異分野連携・融合研究の類型について

※類型分けは、二律背反なものではなく、重複するものもある  
※人文学・社会科学と自然科学の連携・融合のみならず、人文学・社会科学内の連携・融合も重要である

## ① 共通の課題・事象に対して、複数の学問分野からアプローチを行い、新たな知の創出や方法論の革新を目指すもの

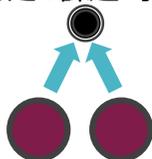


### 共通の大きな課題・事象に対して複数の学問分野からアプローチする研究

- (例) ・ 感染症への対策に関する研究 (飛沫拡散に関する研究、パンデミック対策による行動変容に関する研究 など)  
・ 差別等の社会の分断に関する研究 (集団・民意の形成に関する研究、民族に関する研究 など)  
・ 渋滞に関する研究 (渋滞のメカニズムに関する研究、運転時のストレスに関する研究 など) など

### 特定の課題・事象に対して複数の密接に関連する学問分野がつながりアプローチをする研究

特定の課題・事象



- (例) ・ 認知科学 (人間やその他の生物の認識機構を対象とする科学。神経科学・人工知能・哲学・心理学・言語学など、多方面にかかわる総合的、学際的な科学。)  
・ 行動科学 (人間の行動を実証的に研究し、その法則性を明らかにしようとする科学の領域。心理学・社会学・経済学・人類学・精神医学などが含まれ、総合化・学際化などを特徴とする。)  
・ 社会言語学 (言語を社会的要因との関連で研究するもので、階級・職業・年齢・性別・人種などさまざまな社会層や場面の性質による言語の違いが主要な研究対象となる。) など

## ② ある学問領域の研究のため、他の学問領域の知見や方法論を活用するもの

知見・方法論



- (例) ・ 文化財科学 (文化財の年代測定・材質分析のために、炭素14年代測定法などの自然科学的手法を活用)  
・ デジタル・ヒューマニティーズ(DH) (コンピューターによる情報科学の手法を、広く人文科学の研究に応用する学際的な学問分野。古典籍のデジタル化、史料や芸術作品のデジタルアーカイブの構築と利用、ビッグデータを用いたテキスト解析などをさす。)  
・ ELSI (倫理的・法的・社会的課題) (新規科学技術を研究開発し、社会実装する際に生じうる、技術的課題以外のあらゆる課題に関する研究。)  
※近年、イノベーションプロセスの初期段階から科学技術がもたらしうる倫理的・法的・社会的課題を議論することの重要性が増していることを踏まえると、異分野融合研究の一つ目の「共通の大きな課題・事象に対して複数の学問分野からアプローチする研究」にも分類されるものである。  
・ 量子認知 (物理学の量子確率論の数理モデルを心理学・認知科学研究に応用することで、従来の古典確率論では説明が困難であった人間の複雑な認知や意思決定プロセスを正確に記述・予測しようとする研究)  
・ 科学史 (科学の歴史的変化や過程を研究する学問分野) など

# 人文学・社会科学の研究プロセス と 共同利用・共同研究体制

